

# 不登校の子どもが人とつながり 学びあえる場づくり

独立行政法人福祉医療機構（WAM）が行う社会福祉振興助成事業（WAM助成）は、国庫補助金や寄付金を財源とし、高齢者・障害者などが地域のつながりのなかで自立した生活を送れるよう、NPOやボランティア団体などが行う民間の創意工夫ある活動などに対し、助成を行っています。

今号では、WAM助成を活用したFUTUREDESIGNの取り組みを紹介します。

## 社会的に孤立しがちな 不登校家庭を支援

神奈川県川崎市にあるFUTUREDESIGNは、「街全体を学び場に 子どもたちの主体的な学びが広く認められる社会を目指して」というビジョンのもと、社会のなかで孤立しやすい不登校の子どもとその家族の支援に取り組んでいる。

団体の設立経緯は、代表の生駒知里氏の長男が小学校1年生のときに不登校になりホームスクーリングで過ごすものの、学校以外での教育の機会や社会体験の場が少なく、子どもが家庭で育つことへの理解が進んでいない

と感じ、不登校家庭の親子が孤立せずに学校外で学ぶ子どもの育ちを支えることを目指し、平成29年10月に支援団体を立ち上げた。

支援活動では、孤立する不登校家庭の親子が安心して立ち寄れる地域の居場所を「とまり木」として実施。居場所を可視化するため、「とまり木」にはロゴステッカーを貼り、WEBサイトで紹介する活動を行っている。

さらに、多様な学びプロジェクトとして「とまり木」を活用したワークショップを開催。コピーライターやプログラマー、雑貨屋など、自分の好きなことを職業にしている大人から

仕事を学ぶ「まちの先生」、農家の協力により農業体験を行う「コードモ農業大学」などを実施している。

「とまり木」のコンセプトや仕組みについて生駒氏は、次のように語る。

「居場所づくりでは、新たな箱をつくるのではなく、既存の施設・場所を活用することで多様な居場所をつくり、子どもたちが興味や関心のある活動を選択することのできる新しい街づくりを行うことをコンセプトとしています。仕組みとしては、活動への参画を希望する方に『とまり木』オーナーとして開放

## 一言

### WAMから

代表自身の経験から、不登校家庭にとって真に必要な支援は何かを常に考え、子どもたちの多様な居場所・学び場づくりを行っているだけでなく、ポータルサイトを通じて全国規模で支援者と家庭をつなぐネットワークを確立し、定期的に勉強会や交流会を行っていることは、保護者や支援者にとっても大きな役割を果たしていると思われれます。

新型コロナウイルスの影響もあり、孤立した不登校児童の家庭が増えているなか、オンラインと実際の体験活動を組み合わせ、新しい事業展開の形を工夫されている点が評価できます。

## 不登校家庭の親子と 居場所をつなぐサイトを新設

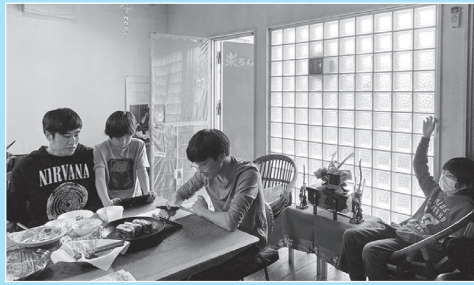
する居場所を登録してもらい、登録やWEBサイトへの掲載は無料で運営しています。活動地域は全国に広がり、児童館や学童保育、プレパーク、フリースクール・オルタナティブスクール、アトリエ教室、カフェ、楽器店などが居場所として登録されています（以下、「」内は生駒代表の説明）。

「とまり木」オーナーは、支援関係者にとどまらず、活動に共感した人や自身の子どもに不登校の経験がある人の参画も多いという。

同団体は、令和2年度のWAM助成を活用し、「街に多様な学びと多世代交流の場を創る多様な学びプロジェクト事業」を実施した。同事業は、孤立している不登校親子が地域の居場所につながり、子どもの学びや子育て



この著作物は著作権法、国際条約およびその他の知的財産権に関する法律や条約によって保護されています。版權者（独立行政法人福祉医療機構）ならびに著作権者の許可を得ない複製（コピー）、再配布を、固くお断りいたします。



安心して立ち寄れる地域の居場所(とまり木)として、全国の児童館やプレーパーク、学習塾、フリースクール、カフェ、農園など、約400カ所が登録されている



支援、多世代交流の場とすることを目的に、  
 ①「とまり木」マッチングサイトと広報事業、  
 ②支援者・保護者向けのオンライン講座・ピアカウンセリング、  
 ③まちの居場所活用モデル事業、  
 ④子ども向けオンライン講座を実施した。

①『「とまり木」マッチングサイトと広報事業』では、孤立している親子が地域の居場所(とまり木)や支援者となりがりやすくするために、WEBサイトのアップグレードを行った。

新たなマッチングサイト「街のとまり木」は、居場所(とまり木)ごとの詳細がわかり、目的や地域別に合わせた検索のほか、カテゴリで遊びの場やフリースクール、オルタナティブスクール、親の会などを探すことが可能となり、同団体だけでなく、それぞれの居場所の活動やイベントなどの情報も随時更新できる機能を備えた。

広報活動では、居場所を示すロゴステッカーをより丈夫なものとしたことに加え、「とまり木」の目指すビジョンや魅力、運営の始め方を掲載するリーフレットを作成し、全国の居場所に配布することで活動を広く周知した。

これらの取り組みにより、令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で小中学校が一斉休校になったこともあり、マッチングサイトは学校に通う子どもを含め、多くの親子に利用された。さらに、約100施設・団体から居場所の登録申し込みがあり、登録数は全国約400カ所にまで拡大した。

令和2年度事業

FUTURE DESIGN

街に多様な学びと多世代交流の場を創る多様な学びプロジェクト事業



WAM 助成 e-ライブラリー

事業概要

助成額  
200万円

【事業概要】

孤立している不登校の子どもや保護者が地域の居場所につながり、育ちや子育て支援、地域コミュニティの場とすることを目的に、不登校家庭と居場所をつなげるサイトのアップグレードを行うとともに、保護者・支援者向けと子ども向けのオンライン講座、居場所を活用したモデル事業を実施する事業



【実施内容】

- ◆『「とまり木」マッチングサイトと広報事業』  
不登校家族が地域の居場所(とまり木)につながりやすくするため、居場所の情報ははじめ、地域、目的、カテゴリ別に検索ができるサイトを整備
- ◆支援者・保護者向けのオンライン講座・ピアカウンセリング  
子どもが信頼関係を育み、成長できる地域の居場所や家庭を増やすことを目的に、支援者と保護者を対象にしたオンライン講座やピアカウンセリングを実施
- ◆まちの居場所活用モデル事業  
居場所に登録する農園での農作業を通して、子どもたちの生きる力を育みながら多世代交流を行う
- ◆子ども向けオンライン講座  
居場所に参加ができない不登校の子どもを対象に、オンラインによる講座や部活動を行うことで家族以外の人と信頼関係を築き、自信や自己肯定感の向上を図る



【成果】

- ◆アップグレードしたポータルサイト「街のとまり木」は、令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で学校が一斉休校になったこともあり、学校に通う子どもも含めて多くの親子に利用された。居場所(とまり木)の登録数は全国約400カ所に拡大した
- ◆毎月開催した支援者・保護者向けのオンライン講座は、毎回100人前後、延べ1500人以上が参加した。有料サロン会員は1年間で149人となり、全国的なつながりが形成された
- ◆まちの居場所活用モデル事業には、不登校等の子ども延べ212人、保護者延べ102人が参加。農作業を学んだほか、栽培した作物の販売会や試食会を通じて地域住民との交流も生まれた
- ◆不登校の小中高生を対象にした子ども向けオンライン講座には延べ151人が参加。講座に参加することで学校の出席扱いになるなど学校との連携も進んだ



大したという。

②「支援者・保護者向けのオンライン講座」では、「とまり木」のオーナーと孤立している保護者に対し、専門家による定期的な研修や、支援の担い手と保護者同士がつながるオンラインコミュニティによるノウハウ提供を

支援者・保護者を対象にした講座とピアカウンセリング



行うことで、孤立感の軽減を図り、子どもにとって信頼関係を育みながら成長できる地域の居場所と家庭を増やすことを目指した。

オンライン講座は、支援者と保護者が一緒に参加する研修講座を毎月開催（支援者向け7回を含む全19回）したほか、支援者と保護者ごとのピアカウンセリング（支援者6回、保護者14回）と、オンラインサロンを常時開催した。

支援者・保護者を対象にした研修講座は、専門講師から子どもへの対応方法や居場所運営のノウハウ等について、支援者向けの研修講座では、居場所を継続的に運営できるような助成金の計画的な活用の仕方やファンドレイジングの手法、子ども・保護者との居場所での関わり方などに関する講座を行った。

「保護者に対しては、ピアカウンセリングやオンラインサロンのなかでケアや保護者同士が交流する機会をつくるだけでなく、学べるといふ視点を入れることにこだわりました。どうしても親の

会などでは、中心的なメンバーの『こうした

いい』という経験談が強く反映されがちですが、保護者の視野が広がるように、不登校の経験から大人になって活躍されている方の話を聞いたり、遊びの専門家のプレワーカーと病児保育の医師による対談を企画し、子どもに寄り添うとはどういうことを学んだり、海外のホームスクールの事例などを紹介することで、保護者の不安の軽減を図りました。研修講座で支援者と保護者が一緒に参加する形式にした理由として、私自身もそうでしたが、孤立した状態で仲間と出会うことができないと、その次は自分自身で何かを始めたかと考えます。そこで居場所を運営する支援者ともつながることで、新しい『とまり木』になってもらえるのではないかとこの思いがありました。

コロナ禍で不登校の子どもが急増するとともに、オンラインでの活動が求められている背景と当事者ニーズがマッチしたこともあり、オンライン講座には毎回100人前後、

全体では延べ1500人以上が参加しており、オンラインサロンの加入者は149人に達した。

## 農業体験で生きる力を育む

③「まちの居場所活動モデル事業」では、不登校の子どもたちの生きる力を育み、多世代交流やキャ

リア教育を目的に、「とまり木」に登録する農園の協力のもと農業体験を行い、子ども延べ212人、保護者延べ102人が参加した。

コロナ禍のため、農業体験を開始した4月5月は公共交通機関での移動を避け、車で移動できる人は現地ですづくりから始め、車の移動が難しい人には種を送り、自宅で苗を育ててもらい、その後土づくりをしていた参加者と合流して苗を植えて野菜を栽培した。

収穫後は、採れた野菜の販売会や試食会を行い、販売会を通じて地域住民との交流を図ることができた。また、農業体験では子どもたちとは別に、保護者専用の畑を用意したことにより、保護者同士の交流が生まれ、子育ての相談や情報交換の場となり、子育ての不安や孤立感の軽減につながったという。

「保護者はどうしても子どもの様子が気になり、口を出してしまいがちになります。そうすると子どもたちは安心してのびのびと活動できなくなるため、それぞれに畑を用意しました。保護者にとっても、あらためて相談の場を設けると、悩みなどの話がしづらいたのですが、作業をしながらだと話もしやすく、本音が出ることも多くなっています。」

## オンライン講座・部活動で自己肯定感の向上を図る

さらに、「とまり木」を利用できない不登校の小中学生を対象に、オンライン講座やワークショップを開催することにより、家族以外の人と信頼関係を育み、自信や自己肯定感を高めることを目指した。



毎月開催したオンライン講座とサロンには、延べ1500人を超える支援者や保護者が参加



まちの居場所活用モデル事業で農業体験を行う子どもの様子



助成事業の成果として、全国にある「とり木」の登録数は約400カ所となり、オンライン講座には不登校家庭や支援者だけでなく、学校関係者の参加もあり、つながりを生

## サロン運営が持続可能な 運営基盤の構築に

そのほかにも、オンライン部活動として「植物栽培部」と「イラスト部」を立ち上げ、子どもが自宅で育てた植物や描いたイラストの写真や動画を投稿し、メンバー同士やスタッフが互いにコメントしあいながら交流を深めたという。

④「子ども向けオンライン講座」は「子ども哲学カフェ」（全12回）と、「ここから世界へ」（全8回）を実施し、延べ151人が参加した。

『子ども哲学カフェ』では、『なぜルーラはあるのか』、『ど

収穫した野菜の販売会や試食会を行うことにより、地域住民との交流も生まれた



でもわかりやすいサイトにしたことで理解が進んだのではないかと思えます。また、オンライン講座や農業体験の参加を通じて、子ども同士の絆が深まり、意欲的になるなど自己肯定感を回復する様子を見ることができました。保護者も孤立感が解消され、子どもへの対応を考え直したり、自ら居場所の運営をしていきたいと考えるなど、大きな変化がみら

れましました。さらに、支援者・保護者を対象にしたオンラインサロンは、助成事業終了後は有料会員制サロン（月額1000円）として運営を継続しており、現在の会員数は令和2年度時点の149人から285人にまで拡大している。これまで支援に携わるスタッフはボランティアであったが、オンラインサロンの運営により人件費を支給できるようになり、持続可能な運営基盤の構築につながっているという。

## 居場所をマップ化した冊子を作成



FUTURE DESIGN  
代表 生駒 知里氏

WAM助成の活用は初めてでしたが、他の助成事業と比べて報告書などの提出書類が多く、会計も厳格なこともあり、これまでおざなりになっていたところをきちんと学べたことは非常に勉強になりました。結果的にスタッフに人件費を支払えるようになり、持続可能な運営体制を構築することができました。

今後の展望としては、より多くの人たちが居場所につながれるよう、川崎市にある居場所をマップ化した冊子を作成し、市内の小中学校や公民館、児童相談所などの公的施設に配布することを予定しています。マップ化した冊子により、どれくらい認知が広がったのかの調査を行いながら、モデルとして全国に広げていきたいと考えています。

### ◆団体概要

神奈川県川崎市高津区内  
TEL：非公表  
FAX：非公表  
URL：<https://www.tayounamanabi.com/>  
設立：平成29年10月  
代表：生駒 知里

### ●NPO リソースセンター

NPO 支援課（助成事業の相談・募集、NPOの融資相談等）  
TEL：03-3438-4756 FAX：03-3438-0218（共通）

NPO 振興課（助成事業の広報、事業評価等）  
TEL：03-3438-9942 FAX：03-3438-0218（共通）

NPO等の民間福祉活動への  
応援よろしくお願いします！

当機構では  
寄付金を募集  
しています



お問合せ先：03-3438-0211（総務部総務課）

